

平成29年度 弘前市総合計画審議会議事概要（第9回）			
ひとづくり・くらしづくり分科会			
日 時	平成29年11月28日（火） 10時00分～12時00分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出席者	委員 (6人)	村松委員、生島委員、島委員、清野（智）委員、青山委員、名越委員	
	事務局 (5人)	ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター総括主幹、ひろさき未来戦略研究センター総括主査、ひろさき未来戦略研究センター主査、ひろさき未来戦略研究センター主事	
	その他		
会 議 概 要			
1 開会			
2 議事			
次期弘前市総合計画の各施策案について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
①ひとづくり			
・ 関係団体から出た意見をすぐに反映し、子育て世代包括支援センターが設置されるということで、スピード感があって良い事と感じるが、どの年代までの子どもを持つ親を対象と想定しているのか。			
→担当課が子育て支援課ではなく、健康づくり推進課となる予定であるので、小中学生も含めた幅広い年代を対象に考えている。			
・ 現在の経営計画について、計画が大きすぎて、各担当課での小回りが利いていないという印象を受けている。特に、教育については、教育行政としての独立性が担保されるべきであると考えますが、総合計画の中に、教育の計画を大きく組み入れる必要があるのだろうか。			
→経営計画における、教育分野については教育委員会と連携して策定しており、例えば、ICT を活用した授業づくりなど教育委員会で進めていきたい取組が反映されており、教育委員会の意向を十分踏まえての計画の構成となっている。			
・ 「子育て」政策の一番初めに結婚対策を位置づける必要があるのか。一番初めにあることによって、「結婚すること」イコール「子どもを産め」というように捉えられるが、結婚するということは子供を産むことだけではない。人の多様な生き方を尊重することも重要ではないか。			

→市としては、婚活施策は、出会いを求めている人たちをつなげたいという思いで取組を行っている。施策の位置づけについては、現計画を踏襲した位置づけとなっており、施策の位置づけについては改めて検討したい。

- ・「人を作る」ということは「人」によって育てられるものだと思う。現計画では、様々な事業があるが、事業に動かされるだけで具体的な人の配置に関するものがほとんどない。人の育ちに寄り添う人がいないので、事業ばかりが先行しているので、例えば、単に「学校の図書館の充実化を進める」ではなく、「学校図書館司書を配置して」と具体的に計画に記載すべきではないか。計画に記載することで、人の配置につながり、それが人を育てていくことにつながるのではないか。

- ・地域が学校に対して、学校運営や教育方針について多くの意見を言うべきだと考えるので、教育や学校に対する地域からの意見や要望を、教育や学校に対する地域からの意見や要望を反映できるような仕組みを検討して欲しい。

→コミュニティスクールでは、地域住民がコーディネイターとして学校運営に必ず参加するようになっているので、今後は、これまで以上に地域と学校が連携して学校教育を進めていくようになる。

- ・子育て世代包括支援センターが開設されるのは、良いことだと思うが、現在のライフスタイルや家庭環境にマッチするのか。忙しい子育て世代が、わざわざセンターまで相談に出向いていくのだろうか。支援体制が整ってはいるが、誰がどのように利用するのかということまで考える必要があるのではないか。

→開館時間については、休日や仕事の後でも相談可能なように配慮するとともに、これまで通り、相談に出向けない妊産婦や新生児の親などに対する訪問も継続し、より幅広い相談支援体制を構築することとしている。

- ・スポーツ振興については、力を入れているように感じるが、ダンスであったり合唱や吹奏楽などの文化・芸術分野も重要であるので、スポーツばかりに力を入れるのではなく、文化・芸術にも同じように力を入れて取り組んでほしい。

→現計画では、文化とスポーツを同じ「政策の方向性」でまとめていたものを、次期計画ではそれぞれの「政策の方向性」として位置づけ整理している。さらに、今後、市の文化振興政策をどのように進めていくべきかの計画を策定することとしており、決してスポーツ振興にのみ注力するというわけではない。

- ・スポーツ・レクリエーション活動について、ウインタースポーツに関する記載がない。雪に親しむ、楽しむという意味からも、例えば学校の校庭でクロスカントリースキーを振興するなど、冬期間のスポーツ振興についても計画に記載してみてもどうか。また、その際には、肥満傾向児の出現率が高いという課題と関連させて記載して欲しい。

②くらしづくり

- ・「地域ケアの推進」の施策で、尊厳ある自立した日常生活を地域で継続できる 65 歳以上の市民を増やすとあるが、指標が「地域包括支援センター訪問延べ件数」では地域ケアが推進されているのかどうか効果がわかりづらいのではないかと。むしろ、「自宅で生活している人の割合」などの方がいいのではないかと。
- ・老人クラブ内部の事業が昔と変わってきており、老人クラブだけで生きがいづくりを担ってもらうというのは非常に難しいと感じる。
- 市としても、老人クラブだけに生きがいを見い出してもらうのではなく、老人クラブに所属せずに様々な活動を行っている人も大勢いることから、色々な方法での社会参加が進むように取り組んでいくべきと考えている。
- ・「くらしづくり」の政策として、「健康」「福祉」「安全・安心」とあるが、この三つだけではなく、例えば、人との交流が豊かなくらしづくりにつながり、高齢者だけではなく幅広い世代での交流があって生きがい生まれることから、支え合い認めるような枠組みが必要。ソフトな視点での社会づくりという視点が完全に抜け落ちているので、色々なものを組み合わせたり、視点を変えたりして補えるのではないかと。
- ・たばこの受動喫煙対策については、まちづくりや観光振興という視点からも必要なことであり、住みよい社会づくりの一つであることから取組を進めていくべき。
- ・交通安全対策の施策があるが、通学路の雪対策についての記載がない。雪対策は「まちづくり」分野で政策としてあげられているが、「くらしづくり」分野での雪対策も必要なのではないかと。
- ・子どもの貧困や若者の貧困対策についての施策がないので、施策として取り上げるべきではないかと。
- ・母子家庭や未入籍妊婦の出産など多様な生き方を支える生活支援という考えや視点に基づいた施策が必要ではないかと。
- ・これまでは、福祉分野は「縦割り」で様々な取組が進められてきたが、今後は、例えば、保育と介護が同じ場所で行われるような、ユニバーサルな考えに基づいた流れになっていくと思うので、そのような視点で取組を進めてほしい。

③その他（分野横断）

- ・目標値の設定の仕方や根拠についての考え方はどう整理しているのか。
- 目標値の設置については、各担当課において、これまでの傾向などを踏まえ、今後 4 年間での取組の結果を考慮して設定している。
- ・これまで審議会では、盛んに政策間や各部局間の横の連携が重要とってきているので、例えば、健康とスポーツや子育てと教育などといった各施策間の相互の関連が見えるような計画の構成としてはどうか。

3 閉会